

# 【水の里の旅コンテスト 2022 応募企画】

## 【一般部門】

一般社団法人下諏訪町地域開発公社 観光振興局

『水の流れから悠久の歴史を辿る しもすわ分水嶺紀行』

(観光地域：長野県 下諏訪町)

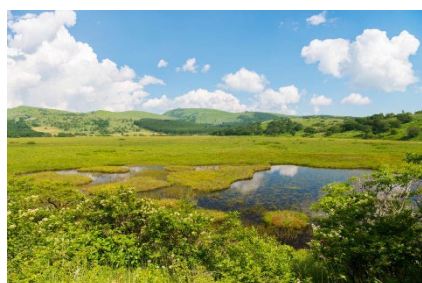
|  |                      |             |  |
|--|----------------------|-------------|--|
| 【日程】   | 1泊2日                 |             |  |
| 【実施時期】   | 通年                   |             |  |
| 【催行人員】   | 15名(最小催行人員：5名)       | 【お勧めする旅行者層】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的好奇心旺盛な旅行者</li> <li>・下諏訪町を初めて訪れる旅行者</li> <li>・アクティブシニア</li> </ul>   |
| 【旅行代金】   | 32,000円<br>(大人1名あたり) | 【代金内訳】      | 貸切バス(1日目のみ) 37,000円 / 1ツアー<br>宿泊費(2~4名1室) 15,000円 / 1名<br>保険(2日間) 222円 / 1名<br>昼食 1,600円 / 1名<br>施設入館料 910円 / 1名<br>ガイディングレシーバー使用料 770円 / 1名<br>その他経費等(ガイド代金含む) 15,000円 / 1ツアー |
| 【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】   |                      |             |  |
| <p>長野県のほぼ真ん中「下諏訪町」</p> <p>豊かな水をたたえる <a href="#">諏訪湖</a><br/>           国の天然記念物である <a href="#">八島ヶ原高層湿原</a><br/>           日本で唯一の黒曜石岩脈採掘坑 <a href="#">星ヶ塔遺跡</a><br/>           全国有数の御分社を持つ信濃國一之宮 <a href="#">諏訪大社</a><br/>           中山道唯一の温泉宿場町として栄えた <a href="#">下諏訪温泉</a></p> <p>本ツアーは自然や歴史、温泉や美味しいものがぎゅっと集まった下諏訪町の魅力を“水の流れ”に注目して辿ります。</p> <p>【ツアーのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶豊かな自然や古くからの歴史文化が“水の恩恵を受けて成り立っている”ことをストーリーとして体感していただける行程<br/>           一見バラバラに見える観光資源や歴史遺産ですが「分水嶺」というキーワードに着目し、繋がりを生み出しました。<br/>           分水嶺という境界は、ただ水の流れを決めているだけではなく、私たちの生活と深い係わりをもち、長い歴史を秘めているのです。</li> <li>▶地域に根差した旅行会社ならではの体験<br/>           諏訪湖博物館、八島ビジターセンター、宿場街道資料館、シルバー人材センター(下諏訪観光ガイド)といった地域の施設や関係者と連携・協力し作り上げました。</li> <li>▶通常は立入禁止の「星ヶ塔遺跡」を特別にご案内<br/>           遺跡の発見・発掘者の解説付きで見学いただける、特別なプログラムです。</li> <li>▶移動時間は同行スタッフがガイド<br/>           本ツアーではいくつかの観光資源や歴史遺産をめぐるため、ツアーのコンセプトやストーリーを途切れることなく感じてもらえるよう同行スタッフが各ポイントをつなぐ役割を担います。</li> <li>▶ガイディングレシーバーを使用<br/>           耳元まで解説をお届けするので、ガイドの話を聞き逃すことなく楽しめます。また、新型コロナウイルス感染防止対策としてソーシャルディスタンスを保ちながらツアーに参加していただくことが可能です。</li> <li>▶しもすわ99分まちあるきマップと万治の食べ歩きチケットを付けることで、ツアー終了後の地域への経済効果を考慮<br/>           しもすわ99分まちあるきマップ：下諏訪町の代表的な観光名所を99分で巡ることができるコースマップ<br/>           万治の食べ歩きチケット：町内の対象店舗25店舗でシールと引き換えに様々な特典を受けられるチケット</li> </ul> <p>【安全確保のための配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶旅行業務取扱管理者の有資格者がお客様の安全・快適な旅のサポート</li> <li>▶旅程管理主任者の有資格者がツアーに同行し、お客様の安全管理に万全の注意を払います</li> <li>▶国内旅行傷害保険への加入</li> <li>▶コース内の危険箇所を事前に調査。星ヶ塔遺跡では山道を歩くため、トレッキングポールを用意します</li> </ul> |                      |             |  |

|               |  |
|---------------|--|
| <p>【催行実績】</p> | <p>有</p> <p>※募集ホームページアドレス：【日帰り】許可なしでは入れない「星ヶ塔遺跡」 <a href="https://shimosuwaonsen.jp/experience/6868/">https://shimosuwaonsen.jp/experience/6868/</a><br/> 【日帰り】鷲ヶ峰・八島湿原ハイキング <a href="https://shimosuwaonsen.jp/experience/8050/">https://shimosuwaonsen.jp/experience/8050/</a></p>                                 |
| <p>【特記事項】</p> | <p>【下諏訪町観光振興局】<br/> 下諏訪町の感動と賑わいを創生するために、「あなたの旅をデザインする」をテーマに掲げ、観光振興における事業推進体制の基盤整備と旅行商品開発による持続可能な観光を推進しています。</p> <p>▶私たちの目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様と事業者に寄り添い、地域に密着した旅行会社にしかできないサービスを提供する</li> <li>・下諏訪町の旅で得られる出会い・学び・感動を通して人生を豊かにする</li> <li>・下諏訪町のファンを増やして困り込む。町が潤い、活性化することを目指す</li> </ul> |

## 【 行 程 表 】

|       |  |
|-------|--|
| 1 日 目 | <p>下諏訪駅(10:00 発)=バス移動&lt;分水嶺ってなに?&gt;=霧ヶ峰高原・八島湿原(10:30/13:00)=バス移動&lt;日本最古のブランド・黒曜石の誕生について&gt;=星ヶ塔遺跡の特別見学(13:30/15:00)=バス移動&lt;黒曜石が出土する場所には「星」がつく地名がたくさん&gt;=しもすわ今昔館 おいでや「星ヶ塔ミュージアム・矢の根や」(15:15~16:00)=バス移動=信州しもすわ温泉 ぎん月(泊)</p> <p>食事/朝:なし 昼:お弁当 夕:お宿にて</p>  |
| 2 日 目 | <p>信州しもすわ温泉 ぎん月(9:00 発)…徒歩&lt;中山道沿いの道には歴史的建造物や、かつての宿場まちの風情が色濃く残っています&gt;…諏訪大社下社春宮(9:15/10:00)…徒歩&lt;温泉のある町ならではの暮らしや、汲み湯スポットを紹介&gt;…宿場街道資料館(10:15/11:00)…徒歩&lt;“東洋のスイス”と呼ばれるほど大気と水が美しい諏訪地域の精密機械産業を紹介&gt;…みずべ公園(11:20/11:35)…徒歩&lt;下諏訪町でおすすめの体験やお土産をご案内&gt;…下諏訪駅(11:50 着予定)</p> <p>食事/朝:お宿にて 昼:なし 夕:なし</p> <p>▶オプション ※早朝のため希望者のみ (5:45 分出発/所要時間 45 分程度)</p> <p>・諏訪大社下社秋宮の「朝御饗祭」へご案内 (神様に供物を捧げるための早朝の神事を見学)</p> |

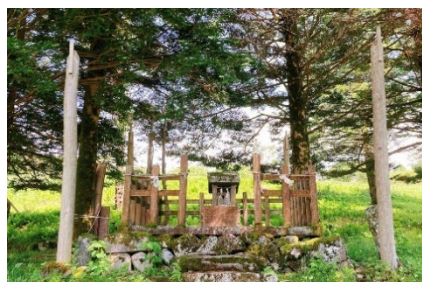
## 【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】



▲ 八島湿原



▲ 霧をまとった湿原



▲ 旧御射山社



▲ 湧水スポット

本ツアーの出発地は雨の分かれ道・分水嶺にあたる霧ヶ峰高原・八島湿原。ここに降った一滴の雨は、観音沢溪谷（東俣川）、砥川を流れ、下諏訪町に恵みをもたらしながら諏訪湖へと注ぎ、天竜川を下って太平洋へと辿り着きます。

▶特別ガイド（霧ヶ峰高原・八島湿原）

八島湿原を知り尽くしたビジターセンターの職員が、およそ 130 万年前の霧ヶ峰火山の活動や湿原の成り立ち、歴史や植物を解説。1 人で歩いているだけでは分からない“魅力”をたっぷりお伝えします。

●国の天然記念物

12,000 年の歴史を持つ八島湿原は、日本を代表する高層湿原。天空の箱庭とも称され、年間約 360 種類もの植物が咲き誇り、蝶類や甲虫などの昆虫、野鳥が数多く生息しています。

●霧に包まれる幻想的な湿原

太平洋側からは天竜川に沿って湿った空気が流れ込み、日本海側からは千曲川に沿って湿った空気が流れ込む霧ヶ峰高原は、上昇気流により雲が発生しやすく、霧ヶ峰の名の通り 1 年のうち 298 日霧を観測した年もありました。

●日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の構成文化財

八島湿原は動物たちにとって貴重な水場であり、格好の狩場となったことから周囲には遺跡が存在し、黒曜石製の石器が出土しています。

●旧御射山

八島湿原の南に位置する旧御射山一帯は諏訪明神信仰の原点として、鎌倉時代には全国の武士たちが集まって祭事を行い、盛大に武芸の腕を競いました。旧御射山社前にはその競技場跡があり、土壇の残骸跡が残っています。現在は、毎年秋になると水源をはじめとする自然の恵みに感謝し、五穀豊穡を願う例祭が執り行われています。

※旧御射山社の目の前には湧水スポットがあり、観音沢溪谷へと流れていく様子を見ることができます。

●八島湿原の公衆トイレ

環境に配慮した水洗式（合併浄化槽）にリニューアルし、木道の整備等の自然環境保全にあてるためチップ制を導入しています。



なぜ諏訪湖では鰻が穫れないのに、この地域の名物となっているのでしょうか？それは、日本でも屈指の鰻の名所として知られている“浜松”を流れる天竜川と深い関係があります。

かつては浜松で生まれた鰻の稚魚が天竜川をのぼって諏訪湖に辿り着き、たくさん水揚げされたことから、鰻を食べる文化が根付いたのです。古くは江戸時代に参勤交代でこの地を通るお殿様に鰻を提供していたという文献が残っているそうです。そんなエピソードとともに、絶品の鰻蒲焼弁当をご堪能ください。

●二十四節氣 神楽

諏訪大社下社秋宮の門前にお店を構える和食店。豊かな信州の風土が育んだ食材を存分に味わっていただくことができます。水は水質の良い諏訪地方の中でも特に上質と言われる下諏訪・東俣水系の水を使用しています。



▲ 川を下り削れていった黒曜石



▲ 星ヶ塔遺跡



▲ 透明度が高くキラキラと輝く黒曜石

原産地では山の一部だった黒曜石は、雨で削られ、土と一緒に斜面を下り、小さな沢へと流れ込み、水の流れて下流へ流され、諏訪湖近くまで辿り着きました。最初は大きく鋭い角があった黒曜石も、川底で他の石にぶつかって削れていく中でどんどん小さくなり、指先程の大きさになったそうです。星ヶ塔一帯の黒曜石は、諏訪湖周辺で細かく散らばっている黒曜石を見つけた人々が、さらなる黒曜石を求めて川沿いを登り進めていく中で発見したのではないかとこの歴史が見えてきます。

▶特別ガイド（星ヶ塔遺跡～星ヶ塔ミュージアム 矢の根や）

遺跡の発見・発掘者である諏訪湖博物館・館長の宮坂清さんが遺跡現地とミュージアムを解説。縄文文化や時代背景をしっかりと学ぶことができます。

●星ヶ塔遺跡

霧ヶ峰の北西部にある星ヶ塔山に広がる、縄文時代の黒曜石採掘遺跡です。縄文時代の資源開発と流通を考えるうえで、極めて重要な遺跡として平成 27 年 3 月に国史跡に指定されました。

●通常立ち入り禁止

特別な許可がなければ入ることができない、縄文人が発掘したとされる日本で唯一の黒曜石岩脈採掘坑「星ヶ塔遺跡」を特別にご案内。

●火山が生み出した天然ガラス

日本列島には北海道から九州まで 100 ヶ所以上の黒曜石原産地遺跡があるといわれていますが、霧ヶ峰から八ヶ岳にかけての地域は良質な黒曜石が多く、割れ口が鋭く加工しやすいため、矢じりやナイフをはじめとする多彩な石器づくりの材料として当時の人々に好まれ、日本列島の石器を代表する石材として利用されていました。



縄文人が求めた黒曜石

星ヶ塔一帯で掘り出された黒曜石は、ふもとのムラからムラへと運ばれていき、山を越え、川に沿って流通していきました。

関東・中部地方を中心に、遠くは青森県の三内丸山遺跡や北海道の館崎遺跡からも出土が確認されていて、この地域を出発した黒曜石が千曲川・信濃川に沿って新潟に辿り着き、船で日本海を北上して運ばれたのではないかと推測されています。交通機関が発達していない時代において、水の流れが人の流れに影響し、黒曜石の供給元として黒曜石石器の文化圏を形成したのです。

●人と黒曜石のかかわりの歴史を考えるミュージアム

縄文時代の黒曜石採掘坑を忠実に再現したジオラマや、黒曜石の広がりを示す地図、採掘イメージのパノラマイラストや町内の出土品などを展示しています。



▲下諏訪町デジタルアルバム「湯の町の恵（市川一雄）」



▲ 諸国温泉効能鑑

古事記から連なる神話の世界が今も生きる温泉

太古の昔、日本最古の歴史書・古事記の神話に登場する建御名方神<sup>たけみかたのみかみ</sup>が、妃神である八坂刀売神<sup>やさかたのめのかみ</sup>と喧嘩をしてみました。怒った八坂刀売神が別居のため諏訪大社上社から下社に渡り、持っていた湯玉を置いたところ、温泉が湧き出たという伝説があります。神聖な「神の湯」は、心の汚れた者が入ると湯口が濁ったと言い伝えられていて、この神話に彩られた物語が下諏訪温泉の始まりとされています。どうぞ神様がもたらした“綿の湯伝説”に思いを馳せ、のんびり湯につかる贅沢なひとときをお過ごしください。

●「東の小結」信州・諏訪の湯

江戸時代、中山道と甲州街道の分岐点に湧く温泉として多くの旅人を癒し、旅人から旅人へと評判が広まった下諏訪温泉は、温泉番付・諸国温泉効能鑑で「東の小結」に格付けされていました。

●暮らしに取り入れられた温泉

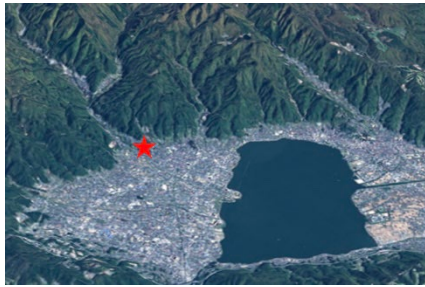
町内には足湯や安価で利用ができる公衆浴場が多数存在するほか、汲み湯のスポットがあり、湯口から運ばれた温泉は家事や炊事に使われるなど、昔から下諏訪町民の暮らしに取り入れられてきました。



諏訪大社下社秋宮まで徒歩3分。諏訪湖を望む高台に佇む全13室の閑静な宿。数奇屋造りの貸切風呂には“綿の湯伝説”にまつわる良質な湯を組み上げ、源泉かけ流しで楽しんでいただけます。

●この土地でしか味わえない季節の味をどうぞご賞味ください

昭和初期までは割烹料理店だったため料理にはこだわりがあり、四季折々の旬の素材をはじめ、地元食材をふんだんに使ったお料理をお楽しみいただけます。料理人が腕によりをかけた「信州・諏訪ガストロミー」ともいべき郷土料理を今様に洗練した形でご堪能ください。



▲ 浮島と砥川

急峻な渓谷から扇状地へと転換する要に鎮座する諏訪大社下社春宮。春宮の脇を流れる清流・砥川は、かつて鎌倉武士が旧御射山の祭事に参拝する際、まずこの川で身を清めてから観音沢渓谷を登り進め、八島湿原に向かったと伝えられています。

▶ 下諏訪観光ガイド（諏訪大社下社春宮）

下諏訪町の歴史や文化を熟知した、地元の60～80代が案内人として登録していて、土・日曜日を中心に春宮と秋宮で観光ガイドを行っています。また、通年活動として予約制の有料ガイドにも対応しています。

● 諏訪大社

諏訪大社は全国に1万社以上ある諏訪神社の総本社で、国内にある最も古い神社の1つであり、上社の本宮と前宮・下社の春宮と秋宮という、諏訪湖を挟んで南北に離れた場所に鎮座する二社四宮からなっています。古くは水・風の守護神で五穀豊穡を祈る神。また武勇の神として広く信仰され、現在は生命の根源・生活の源を守る神として御神徳は広大無辺で、多くの方が参拝に訪れます。

● 諏訪大社下社春宮

国指定重要文化財の幣拝殿1棟、左右片拝殿2棟の他、御宝殿や神楽殿等の建造物を有し、御神木の杉の木をはじめとした大木に囲まれ厳肅な雰囲気の内を構成しています。また、諸建物を囲むように、7年に1度の御柱祭で曳き建てられた4本の御柱が配されています。

● 決して沈まない島?! 「浮島」

その起源や成り立ち、数多くの特殊な神事など謎の多い諏訪大社ですが、すでに700年ほど前から「諏訪七不思議」として古文書に記録されています。春宮横を流れる砥川は、諏訪湖北岸最大の川で、今まで度々氾濫を繰り返して来ましたが、お宮の裏手にあるこの「浮島」はどんな洪水にも流されることがなく、濁流の渦巻く大水の時でも浮いているように見えたため、七不思議の1つとされています。

● 諏訪湖に流れ込む1級河川・砥川

諏訪湖に流入する河川のうち最も水質のいい川で、その源流は霧ヶ峰高原に発し、御柱のご用材が切り出されるふるさとであり、水質浄化作用があると言われる黒耀石の層を有す東俣国有林の水を集め、市街地へ流れ下ってきます。下諏訪町民へ給水される上水のほとんどはこの東俣から湧き出る水を水源としていて、おいしいと評判です。



白々と陽が昇り始め境内にも少しずつ朝の光が届く頃、太鼓が打ち鳴らされ神事が始まります。神秘的な空気が漂う早朝の諏訪大社下社秋宮で「朝御饗祭」を見学、奉仕活動ができる特別体験をご案内いたします。早朝ではありますが、ぜひともこの地でしか体験できない「朝御饗祭」にご参加いただき、神様とのご縁を結ばれることをおすすめいたします。

● 諏訪大社下社秋宮

諏訪大社下社秋宮は中山道と甲州街道の交差する下諏訪宿という交通の要所に鎮座し、古くは街道を歩く旅人や大名も参拝しました。国指定重要文化財の幣拝殿1棟及び神楽殿1棟、左右片拝殿2棟の他、御宝殿や社務所等の建造物を有し、御神木のイチイの木をはじめとした大木に囲まれ荘厳な雰囲気の内を構成しています。また、春宮と同じく、諸建物の四隅には7年に1度の御柱祭で曳き建てられた4本の御柱が配されています。

● 神様との縁結び「朝御饗祭」

神様に供物を捧げるための早朝の神事「朝御饗祭」。諏訪大社には二社四宮お社がありますが、その全てで毎朝この神事が執り行われます。そうした神職の方々の祈りによって、この諏訪の地はこれからも神様に守られていくのだと感じずにはられません。

● 全国でも珍しい温泉の手水舎「御神湯」

諏訪明神が竜に姿を変えたという竜神伝説にちなんで、竜の口をかたどった湯口から天然温泉が流れ出ています。



▲ 木曾名所図会巻之四「諏訪の温泉」



▲ 宿場町だった頃の風情が残る町並み



▲ 中山道と甲州街道の合流地点

古くから江戸と京都を結ぶ大動脈として栄えた中山道。

中山道は険しい山道が多く、冬場は寒さが厳しい街道でしたが、中でも下諏訪宿と和田宿の間に立ちのぼる分水嶺を越える和田峠は、中山道最高地点（1,531m）にして最大の難所と言われていました。

現在は地質学用語のような印象がある分水嶺ですが、古くから街道を歩くにあたり難所となることが多かったことから、当時の人たちの生活と深い係わりを持っていたことが分かります。

▶ 特別ガイド（宿場街道資料館～みずべ公園）

諏訪湖博物館・専門研究員であり、地質学及び歴史地理学の研究者・小口徹さんより、歴史街道や下諏訪温泉、諏訪盆地の成り立ちから縄文海進にいたるまで、ロマンあふれる解説をお話しいたできます。

● 宿場街道資料館

当時の賑わいを伺い知ることのできる街道や温泉などの貴重な歴史民俗の資料が保存・展示されています。

● 江戸時代へタイムスリップ！下諏訪宿

古くから江戸と京都を結ぶ大動脈として栄えた中山道には69もの宿場がありましたが、その中で唯一温泉が湧く宿場町として、幾多の旅人を温かく迎え入れてきました。5街道の内、中山道と甲州道中の2つが交差する交通の要所としても有名です。



▲ 葛飾北斎の富嶽三十六景「信州諏訪湖」



諏訪盆地のほぼ真ん中に位置する諏訪湖は、海拔 759m、1 周約 16 kmの信州で最も大きな湖です。長野県から愛知県、静岡県を経て太平洋へと注ぐ天竜川のはじまりとして豊かな水をたたえ、季節や時間によって様々な情景を見せてくれるその姿は、諏訪地域の象徴といえます。

●みずべ公園

かつて葛飾北斎や歌川広重の浮世絵にも描かれた諏訪湖から望む富士山の眺めは、国土交通省の“関東の富士見百景”に選ばれています。今では景観が移り変わってしまい、江戸の人々と同じ視線で富士を眺めることは難しくなりましたが、作品を見ながら江戸の富士見と現代の富士見を比べてみるのはいかがでしょうか。

●盆地の底から富士山が見える

県土の約 8 割が山という山岳県にあって、下諏訪町の諏訪湖岸という盆地の底から約 100 キロも離れた富士山が、何物にもさえぎられることなく眺望できるというのは地学的に奇跡といっても過言ではありません。

●2大構造線が交差する諏訪盆地

日本列島を形成する上で欠かせない中央構造線と糸魚川—静岡構造線の交差する諏訪盆地。諏訪湖をはじめ、温泉あり、火山あり、良質な黒曜石ありと、諏訪の地形が様々な表情をみせるのもこのような地学的特徴からきているのです。

●諏訪湖を目指した縄文人

海水面の上昇に伴う「縄文海進」によって、海沿いから移動せざるを得なくなった東海地方の一部の人々が、天竜川の源流を目指して内陸に向かい、諏訪湖へと辿り着いたのではないかと考えられています。

海から遠く離れた山間の湖「諏訪湖」。そこから水は流れ、人々はそれをたどり行き来したのです。

●神秘的な自然現象・御神渡り

冬の諏訪湖には、氷の筋が山脈状に湖面を走る「御神渡り」が出現することがあります。これは、“諏訪大社上社の建御名方神が、喧嘩をして下社に移り住んでしまった妃神・八坂刀売神のもとへ通った道筋”と伝えられていて、諏訪七不思議の1つとされています。

平安時代には源頭仲が和歌で御神渡りのことを詠っています。

～ 諏訪の海の 氷の上の かよひちは 神のわたりて とくるなりけり ～

●純白の冬の使者

諏訪湖の冬の風物詩ともいえる白鳥。2021年には5季ぶりに100羽を超える白鳥が飛来し、優雅な姿を見せてくれました。

●アクティビティ

諏訪湖のまわりにはジョギングロードやサイクリングロードが整備されていて、季節を感じながら体を動かせます。また、遊覧船・カヤック・サップ・釣りなど、豊かな自然を全身で感じながら楽しんでいただけます。

●下諏訪ローイングパーク

県内唯一の漕艇場があり、ボートは町民スポーツのひとつとなっています。2020東京オリンピック開催時には、その事前合宿地として、ボート・カヌー競技に出場するアルゼンチンとイタリア選手団を受入れました。

●諏訪湖で地域初のトライアスロン大会（2022）

諏訪湖を発着点とし、大自然に囲まれた八ヶ岳山麓を駆け抜けるトライアスロン大会が初めて開催され、全国から約700人の選手が出場し、鉄人レースに挑みました。

●諏訪湖花火

全国でも有数の規模を誇る花火大会は、夏を彩る信州の風物詩。4万発もの花火が夜空と湖上に光の華を咲かせます。四方の山々に花火の音がこだまするため迫力も満点。湖上に咲く水上スターメインや全長2kmにも及ぶ大ナイヤガラ瀑布も諏訪湖ならではの花火です。

※2022年は新型コロナウイルスの感染拡大により大規模な花火大会を中止し、分散形式で花火の打ち上げをおこなっています。



【名産品】りんご



下諏訪町では、9月中旬から10月下旬までりんご狩りの体験ができます。諏訪湖畔のさわやかな空気と、陽射しをたっぷり浴びて育った上質なりんごをぜひご賞味ください。

●シモスワシードル

町内の農園とソムリエが協力し、傷が付くなどして贈答用にできないりんごを加工して造ったお酒を商品化。今後もさまざまな町内産果実を掛け合わせるなど、下諏訪町の風土や文化を味わえるシードルを造っていく予定です。

【名産品】わかさぎ



諏訪湖周辺では古来より漁を生計とした人々が多く存在してきました。特に諏訪湖のわかさぎは“湖の幸”として全国的にも定評があり、地域の旅館や飲食店などで甘露煮をはじめ多彩な料理が提供されています。

【名産品】信州味噌



諏訪地域は、澄んだ空気やきれいな水、寒暖の差の激しい気候など、醸造に適した風土が味噌づくりに最適な場所として有名です。

信州味噌は歴史とも関わりが深く、戦国時代に武田信玄が海のない信濃の国では貴重品だった塩を備蓄するために生産を奨励し、兵糧としても利用していたと言われています。

【お土産】御湖鶴酒造場



「御湖鶴<sup>みこつる</sup>」は心ときめく酒をテーマに、高品質で絶えず成長し続ける酒造りを目指す下諏訪町にある唯一の酒蔵です。

信州諏訪の清涼な水から醸し出される上品な酒は、地元の人々だけでなく、世界に評価されています。

●IWC 2021 Sake Champion 最高賞受賞

イギリスロンドンで開催された世界最高峰の日本酒コンテスト「インターナショナル・ワイン・チャレンジ 2021」のSake部門 / 純米吟醸部門において、「御湖鶴 純米吟醸 山恵錦」が、最優秀賞の「純米吟醸トロフィー」を受賞し、さらに最高賞の「チャンピオン・サケ」の称号を獲得しました。